CARE World

Vol. 47 ケア・インターナショナル ジャパン Newsletter June 2024

ケア・インターナショナルジャパンは、世界100か国以上で人道支援活動を行う国際NGOケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性や女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。

Contents

page 1 新規事業！
東ティモール：遠隔集落における生業改善事業

page 2 ～ page 3 現地視察報告
ネパール：遠隔地の学校における教室改修支援事業

page 4
・終了報告
歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2024」
・東京マラソン 2025 チャリティ
・編集後記

東ティモールにて新規事業開始

「遠隔集落における生業改善事業」女性の経済的エンパワメントと農業の多様化を通じて、貧困削減を目指す

2024年3月、東ティモールのエルメラ県アッサベ郡において、「遠隔集落における生業改善事業」を開始しました。この新しい事業は、同年2月に終了した「農業用水改善事業」をさらに発展させ、残された課題の解決を目指し、同郡の農民とその地域への支援を継続するものです。

首都ディリから南西45キロに位置するエルメラ県アッサベ郡は、県の中心部からさらに離れた山岳遠隔地にあり、住民の大多数が零細農家で、貧困に苦しむ農村地域です。同地の農業は、自給自足に留まり、また、近年の気候変動とそれに伴う災害の多発により農業生産性は安定せず、農民世帯の生業も不安定な状況です。そのため、雨期の天水に頼った穀物の生産だけではなく、農業を多様化し、年間を通じ作物が収穫できる環境への改善が求められています。これらの課題を踏まえ、この事業においては、生業支援を中心に行い、引き続き、女性の経済的エンパワメントにも取り組みます。

▲2024年2月、在東ティモール日本国大使館にて、本件事業の贈与契約署名が、木村徹也駐東ティモール日本国大使（左から3人目）と当財団現地統括である伊藤洋子（左端）によって行われました

生業支援

乾期にも野菜を栽培できるようにし、将来の野菜の販売促進のため、農民を市場に繋ぐ基盤を作ります

農業用水設備の整備、水管理委員会の能力強化、野菜栽培技術研修、村落貯蓄貸付組合（VSLA＊）の設立、市場調査等の活動を展開します。

女性の経済的エンパワメント

女性が家計に良いインパクトをもたらせるように、金融サービスへのアクセスを促進します

VSLAの設立による金融サービスの提供や、配偶者を巻き込んだジェンダー平等研修等の活動を展開します。

なお、この事業の現地統括は、当面の間、伊藤洋子が引き続き担当します。

＊VSLAとは、15～30人で構成される村単位の貯蓄貸付組合で、貯金と小規模貸付を行う。返済金の利息がもたらす収益をメンバー間で分け合う仕組み。従来型の銀行には融資してもらえず、マイクロファイナンス機関も利用できないほどの僻地では、現地の銀行として機能している。

▲2023年12月、在東ティモール日本国大使館にて行われた天皇誕生日祝賀レセプションにて、ラモス＝ホルタ東ティモール大統領（左から2人目）にアッサベ産の野菜を披露しました

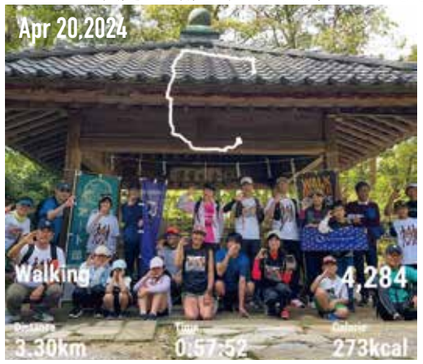
ケア・インターナショナルジャパン　ニュースレター　CARE World Vol.47　2024年6月30日発行　発行人：目賀田周一郎　編集：中妻博子

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2024」たくさんの皆さまのご参加ありがとうございました

当財団は、今年も国際女性デーの3月8日から5月31日まで、歩く国際協力「Walk in Her Shoes」キャンペーンを実施。13回目となる今年は、2,770名の方に「好きな時間、好きな場所で歩く」へご参加いただき、水汲みのために毎日歩かなければならない女性や女の子の身になって、皆で1,348,758,251歩を歩きました。また、「世界水の日チャリティーウォーク」では、東京丸の内から皇居外苑を巡る約6キロの新コースを設定し、66名の皆さまにご参加いただきました。その他、全国各地で7つの自主企画や九州限定のイベントなども実施されました。さらに今年は、SNSの投稿による参加方法に、「C」のほか「水」の写真、また「C」を描くGPSアートが加わり、投稿枚数は全部で1,686枚になりました。改めましてご参加・ご協力いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。来年も、「彼女たち」の未来を支えるために、皆さまとともに健康的に「歩く」ことを楽しみにしています。

（マーケティング部　指原）

「世界水の日チャリティーウォーク」では、世界の水問題やジェンダー問題の理解を深めながら歩いていただきました



「C」のGPSアートを描く新企画にあわせて、オンラインイベントや自主企画イベントが各地で開催されました

東京マラソン 2025 チャリティに参加します

当財団は、東京マラソン2025［2025年3月2日(日)開催］チャリティに寄付先団体として参加します。このチャリティマラソンは、"走れる幸せを誰かの幸せにつなげよう。"という願いを込めて東京マラソン財団と各寄付先団体と協働で運営されています。本チャリティを通じて、皆さまからお寄せいただく寄付金は、ウクライナなどの紛争地域や途上国において、困難な状況にある女性と女子の自立を支援する活動に充てさせていただきます。募集詳細情報を当財団サイトにて公開しています。皆さまの「走る国際協力」へのご参加をお待ちしております。

東京マラソン 2025
チャリティ詳細・申込

（マーケティング部　七島）

編集後記

新事業計画および予算が理事会と評議員会において採択されました。国際的には、6月中旬にケア・インターナショナルの総会がジョージアで開催され、ルイス・モントーヤ新議長（ペルー出身）はじめメンバー国の会長・事務局長等が参加、新たなガバナンス体制で新年度が幕開けとなります。

CAREの一員として、女性と女子のエンパワメントに焦点をおき、新年度は今号で特集したネパールと東ティモールをはじめとする開発支援活動や緊急・復興支援に注力します。（児玉）

2月に先行事業が終了し、3月から新事業が始まって、事業スタッフ一同とても忙しい日々を過ごしております。対象4集落において農民グループ、村落貯蓄貸付組合、水管理委員会を組織し、まずは貯蓄活動が始まりました。村落貯蓄貸付組合の活動は皆さん大変関心が高く、とても積極的に研修に参加していたのが印象的でした。

これから、農民グループの皆さん待望の農業用水設備の建設が始まりますので、現場はさらに忙しくなりそうです。（伊藤）

個人支援者専用ダイヤル　TEL：03-5499-9931

CARE　アクションする

公益財団法人　ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL：03-5950-1335　FAX：03-5950-1375
E-mail：info@careintjp.org　Website：www.careintjp.org
Facebook：www.facebook.com/CAREjp　Twitter：https://twitter.com.CAREjp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの会田ひとみ様のご協力により、制作されています。

ネパール 「遠隔地の学校における教室改修支援事業」現地視察のご報告

▲改修された校舎前で、コミュニティの歓迎を受ける株式会社えがおホールディングスの北野取締役（中央）

活動地域	ネパール 北西部 カルナリ州 スルケート郡ビレンドラナガル
実施期間	2023 年 8 月 1 日～ 2024 年 6 月 30 日
対象者	全校生徒 362 人 （男子 173 人、 女子 189 人）
ドナー	株式会社えがおホールディングス
事業規模	1,300 千円

◀ 下に見える干上がった川は雨期には通行不可になります

「最も届きにくいところに支援を届ける」CARE の活動を目で確認し、肌で感じる

首都カトマンズから飛行機で北西に移動すること 1 時間、さらに、スルケット空港で四輪駆動車に乗り換え、舗装されていないがたがた道を登ること 1 時間半。ようやく目指すラストリア校に到着です。

スルケット郡ビレンドラナガルの人里離れた山岳集落にある同校は、区内唯一の学校で、徒歩 2 時間かけて通学する生徒も少なくありません。そのうえ、資金不足により、教室には壁がなく、女子に配慮したトイレもありませんでした。

2023 年夏に当財団は、子どもたちが安心して学べる環境をつくるために、この学校の支援を開始しました。そして今回、本事業支援者の株式会社えがおホールディングス様と一緒に、活動の進捗を確認するために現地を視察しました。

今回同社にご支援いただいた校舎は、土台と屋根は完成したものの、資源と資金不足のため、手つかずのままになっていたもので、生徒たちは壁のない教室で勉強せざるを得ない状況にありました。

▼ 外壁が完成し、手前には車いす用のスロープが設置された校舎

訪問した 4 月のネパールは乾期にあたり、一年で一番暑い時期です。学校が建つ山岳地帯には熱風が強く吹きつけ、砂埃が常に舞っていました。壁がない教室で生徒たちが学び続けるのは大変だったことは想像に難くありませんでした。今回の訪問において、遠隔地の生徒たちが集中して勉強ができる環境をつくる活動をこの目で確認し、肌で感じることができたことは大きな成果でした。

▲ラストリア校の全景

▲手洗い場が設置されたトイレの前に立つ副校長（左）とスルケット駐在のCARE職員（右）

トイレの改修により、退学者を減らす

また、貯水タンクがなく、水道が通っていなかった学校のトイレは、現在改修中で、女子に配慮したトイレは今号が皆さまのお手元に届く頃には完成予定です。これにより、トイレを理由に不登校になり退学してしまう女子生徒が減ることが期待されています。

今後は、書籍や教材を備えた図書館を開設し、男女の区別なく、質の高い教育を受けられる環境をつくっていく予定です。

さらに、女子に対する暴力や差別を含め、月経にまつわる社会的慣習や古い言い伝えを変えるための教育も行っていきます。

トイレの改修を待ち望む女子生徒たち▶

▲左から、教育担当のラビンドラ、男女共同参画・保健と教育の権利シニア・コーディネーターのニーバ、筆者、事業開発・アウトリーチ部長のアメンドラ、中央はスルケット駐在の男女共同参画と保健教育担当のナビレイ

CARE ネパールのスタッフの奮闘

今回の事業地視察において、最も大きな収穫の一つは、改修事業の確認のみならず、CARE ネパールのチームに出会えたことです。

ネパールの同僚たちは、この国の政治に希望が見い出せなくても、若者が次々と国から流出していっても、自国で踏ん張って、自国の弱い立場におかれた人々のために身を粉にして奮闘しています。

彼ら・彼女たちの働きぶりを間近でみて、同じ CARE ミッションを共有するファミリーとして彼ら・彼女らのことを心から誇りに思います。まだまだ時間と忍耐を要することと思いますが、この国の発展を願わずにはいられません。

（マーケティング部　甲斐）